



HPE Aruba Networking ソリューション特集

HPE Aruba Networkingからのお知らせ

News Release

HPE Aruba Networkingはネットワーキング業界の主要な調査会社によってリーダーの1社として位置付けられました

- HPE Aruba Networkingは日経コンピュータ 2023年8月31日号 顧客満足度調査 2023-2024 ネットワーク機器部門で初めて1位を獲得



- HPE Aruba Networkingは2023年 Gartner® SD-WANのMagic Quadrant™においてリーダーの1社に位置付け(6年連続)
- HPE Aruba Networkingは2022年 Gartner® エンタープライズ有線/無線LANインフラストラクチャ部門のMagic Quadrant™においてリーダーの1社に位置付け(17年連続)
- HPE Aruba Networkingは2023 Gartner Critical Capabilities エンタープライズ向け有線/無線LANインフラストラクチャ部門の5つのユースケースすべてにおいて、Top3のスコアを獲得

日本語コンテンツページのご案内

日本語ドキュメント、日本語各種資料を順次更新していきます。こちらでは、セットアップガイド、インストレーションガイド、基本操作ガイド、各種プレゼンテーション資料類の日本語訳を掲載しています。



QRコード▲

<https://www.arubanetworks.com/ja/resources/technical-guidance/>

Airheads Japanのご案内



Airheads アカデミー

Arubaのネットワークエンジニアによる、ネットワークエンジニアのためのセミナーを定期的開催しています。ネットワークの基礎知識や、Arubaの新しいソリューション、活用方法などのコンテンツが盛り沢山です。過去のコンテンツはビデオオンデマンドもあるので、是非ご覧ください。

https://connect.arubanetworks.com/ja_airheads_academy2021



QRコード▲

Airheads スクール

Airheads スクールは、Arubaのアーキテクチャーやテクノロジーをより深く、より具体的にご理解いただくことを目的としたハンズオントレーニングです。「ウェビナー形式」での開催、ご自身でテキストとお手持ちの機器を使用して学ぶ「セルフハンズオン」、もっと深く学びたい方には、リモートでエンジニアから学ぶ「リモートハンズオン」をご用意しております。

https://connect.arubanetworks.com/Airheads_school



QRコード▲

Airheads Community 日本語フォーラム

Airheads Communityは世界最大規模のEdge Networkのコミュニティです。日本語フォーラムでは日本独自のコンテンツの提供やQ&A対応をしているので、コミュニティを是非ご活用ください。



<https://bit.ly/ahcjapan>



QRコード▲

HPE Aruba Networking特集

特集[1] HPE Aruba Security-First Networking

昨今のビジネスの現場では、エクスペリエンス(利便性、体感、快適さ)の重要性は高まる一方です。ほとんどのツール、アプリケーションはネットワークを介して提供されるため、エクスペリエンスを向上するために、ネットワークを最適化することはとても重要な要素となってきています。一方で、ランサムウェアを始めとする情報セキュリティの脅威によるビジネスへの影響は増加傾向にあるため、セキュリティ対策も欠かせません。一方で、従来の単純なセキュリティ対策ではネットワークの利便性やパフォーマンスが低下してしまい、エクスペリエンスも低下してしまいます。ネットワークの利便性とセキュリティ対策の両立を、HPE Aruba Security-First Networkingで実現することができるので、是非ご一読下さい。

特集[2] シンプルでコスト効率が高いHPE Aruba Networking Unified SASE

在宅勤務からハイブリッドワークにシフトする企業・組織が増加する中、どこからでもセキュアにアプリケーションへのアクセスを実現することは企業・組織にとって急務となっています。また、従業員の方が利用するアプリケーションはオンプレミスからクラウドへとシフトし、SaaSの活用やハイブリッドクラウド/マルチクラウド環境の実現が進んでおり、進化するアプリケーション環境に追従できる柔軟なネットワークとセキュリティが求められています。HPE Aruba NetworkingのUnified SASEは昨今の企業・組織におけるネットワークとセキュリティの課題にシンプルかつコスト効果が高いソリューションを提供します。

特集[3] 次世代データセンターネットワーク

現在のビジネス環境において企業はDXによるアジャイルな変革が求められ、これに対応するべく次世代データセンターネットワークは迅速・柔軟に構築・運用ができ、かつ大容量でセキュアでなければなりません。これらのニーズはConnect/Protect/Automateに集約されます。HPE Aruba Networkingは理解しやすいシンプルな製品体系、ライセンス体系でこの3要素をみたくソリューションをご提供します。ぜひご一読ください。

特集[4] HPE Aruba NetworkingによるGIGAスクールネットワークの課題解決

教育においてもICTの効果的な活用が求められるようになった社会の変化を受けて、文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」(GIGA = Global and Innovation Gateway for All)は、小中高校などの教育現場で児童や生徒がPCやタブレットを活用して主体的な学びを行う取り組みです。「GIGAスクール構想」ではハード環境整備だけでなく、デジタル教科書やAIの活用などのソフト面、ICT支援員などの外部人材による支援を活用した指導体制などの改革が含まれます。学校内でPCやタブレットを活用し学習を進めるためには、ネットワークインフラが重要となり校内LANの整備や強化も行われてきています。HPE Aruba Networkingはこれまで無線LANやスイッチで快適な校内LAN整備に貢献し、前回のGIGAスクールネットワークでも多くの学校で導入いただきました。教育情報セキュリティポリシーガイドラインも改訂され、次期GIGAスクールネットワークも進化していくと考えられます。HPE Aruba Networkingは現状のネットワークに対する課題の解決を通じて次期整備を支えていきます。ぜひご参考ください。

特集[5] ネットワークの新しい買い方“HPE GreenLake for Networking”

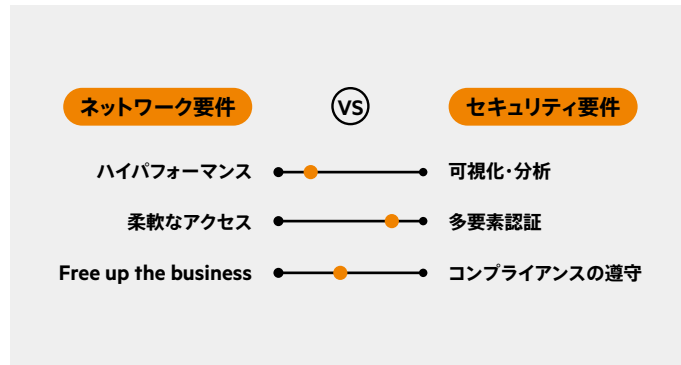
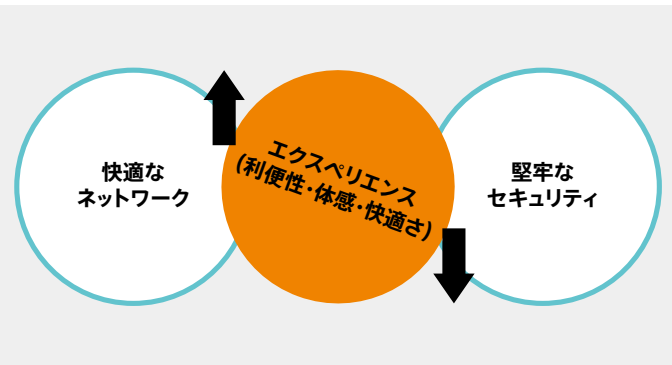
従来のネットワークは全て自前で資産購入して構築するケース、リースを利用して外部パートナーに構築を委託することが一般的で、一度構築したネットワークは簡単に入れ替えることは難しいのが現実です。そのため、数年先を見据えて必要以上の高帯域なネットワークを準備し、高額な投資を迫られることも少なくないはずですが、最近の利用するアプリケーションの変更に伴ってネットワーク構成に影響を受けるだけでなく、DX推進による新たな付加価値を生み出すために必要な情報を確保するために、これまで取得していなかった情報をエッジから吸い上げたいといったニーズも出てきています。また、クラウド上で得た知見をうまく現場にフィードバックし、顧客に対して新たな顧客体験を生み出すための新たなテクノロジーがネットワークでも追従できるよう柔軟な環境整備が必要になっています。この柔軟なネットワーク環境としてNaaSが目目されています。NaaSはネットワークのアズ・ア・サービスとしてネットワーク機器やネットワーク管理に必要なサービスを所有せずに利用するものです。HPE Aruba Networkingの提供する NaaSは“HPE GreenLake for Networking”として、「HPE Aruba Networking製品+保守のサブスクリプション」と「カスタマーエクスペリエンス」を3年もしくは5年契約で利用できるサービスです。今回新たにより簡易にAruba NaaSを利用できる“Service Packs”をリリースしました。無線や有線、SD-WAN、ネットワークポリシーなど製品カテゴリごとに必要なコンポーネントがパッケージ化されていることでシンプルに選択・調達できるようになりました。Aruba NaaSのネットワークの新しい買い方についてご紹介します。

特集[1]
Security-First

「ネットワーク vs セキュリティ」から 「ネットワーク with セキュリティ」へ

昨今のビジネスの現場では、エクスペリエンス(利便性、体感、快適さ)の重要性は高まる一方で。モバイル5Gは低遅延によるアプリケーションの快適な利用を可能にし、遠隔医療や自動運転など新しい分野でも活用が期待されています。ChatGPTも、複雑だったAIの利用方法をチャット形式にすることで劇的な成長を遂げています。昨今のほとんどのツール、アプリケーションはネットワークを介して提供されるため、これらのエクスペリエンスを向上するために、ネットワークを最適化することはとても重要な要素となってきています。一方で、ランサムウェアを始めとする情報セキュリティの脅威によるビジネスへの影響は増加傾向にあるため、セキュリティ対策も欠かせません。

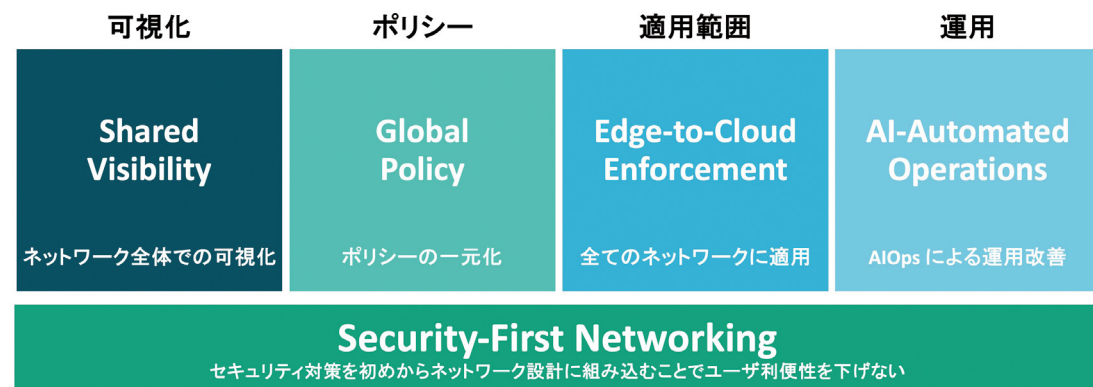
ただ、このネットワーク要件とセキュリティ要件は相反するものになりがちです。ネットワークにはハイパフォーマンス(ハイスループット)で、IoTを含む様々なデバイスを簡単に接続し、快適にアプリケーションが利用できることを求める一方、セキュリティ要件としては、コンプライアンスを遵守するために、トラフィックや振る舞いの可視化、接続時の認証・認可、権限に応じたアクセス制御など、要求レベルを高めるほどネットワークの性能、使い易さに影響が出てしまい、その結果、ユーザのエクスペリエンスも低下してしまいます。



HPE Aruba Security-First Networking

エクスペリエンスを高く維持したセキュアなネットワークを実現するためのアーキテクチャが Security-First Networking です。セキュリティの機能を標準でビルドインしたネットワーク製品を提供し、ネットワークアーキテクチャの中にも、標準でセキュリティ機能を組み込むことで、ハイパフォーマンスで快適なネットワークの提供が、そのままセキュアなネットワークを提供することに繋がります。HPE Aruba Networkingが実現する Security-First Networking アーキテクチャの特徴は大きくは以下の4点になります。

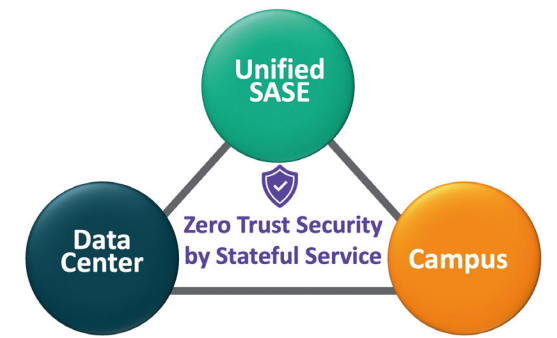
- ネットワーク全体での可視化
- ポリシーの一元化
- Edge-to-Cloud の全てのネットワークに適用
- AIOpsを活用したセキュリティの向上と運用の改善



Security-FirstとZero Trust Security

セキュリティがビルトインされたネットワークを言い換えると、ゼロトラストのコンセプトを実現することができるネットワークと表現することができます。ゼロトラストのコンセプトの中で、ネットワークとして最も重要な要素はステートフルサービスです。いわゆるステートフルファイアウォールの機能で、内部からの必要な通信のみ許可し、外部からの不明な通信を全てブロックする機能を意味します。

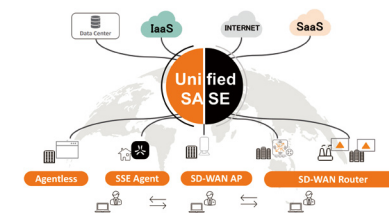
HPE Aruba Security-First Networkingのコンポーネントは、Campus LAN, WAN (=Unified SASE), Data Centerと企業を取り巻くネットワークの全ての領域でステートフルサービスを実装した製品・ソリューションを提供することができます。



Security-First Networkingのポートフォリオ

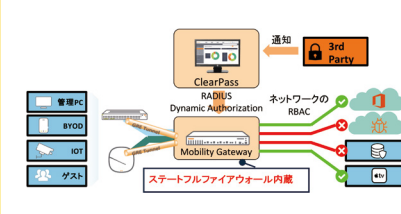
Modern Cloud Security <ul style="list-style-type: none"> • SSE : ZTNA, SWG, CASB, DEM • 統合SSEプラットフォーム • シンプルな管理UI 	SD-WAN Modernization <ul style="list-style-type: none"> • クラウド連携 • UTM + ルータ • アプリケーションの最適化 	SASE Initiative <ul style="list-style-type: none"> • Unified SASE • Work from Anywhereの実現
Campus Network Transformation <ul style="list-style-type: none"> • Unified Infra • Wi-Fi, Wired, IoTの最適なアクセス • AIOps & Security 	Data Center Network Modernization <ul style="list-style-type: none"> • 運用の簡素化 • 800Gbpsのステートフルサービススイッチ • Micro Segmentation 	NAC-Driven Segmentation <ul style="list-style-type: none"> • ロールベースポリシーの一元化 • Dynamic Segmentation

Unified SASE



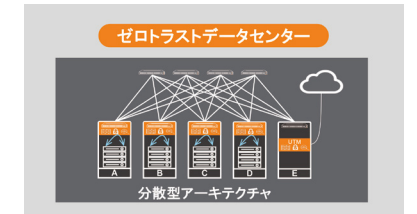
大規模から小規模まで対応したUTM内蔵のSD-WAN GatewayとAgentless ZTNAにも対応したSSEを連携することで、セキュアなWork from Anywhereを実現します。(詳細は特集2)

Campus



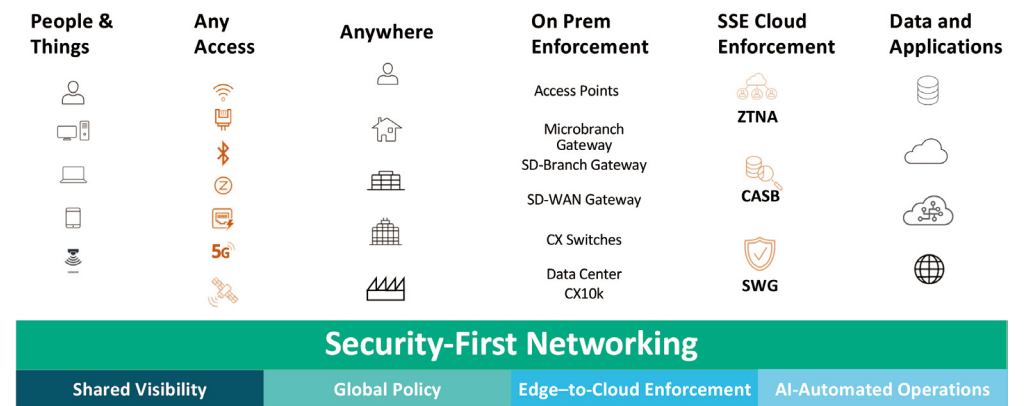
ユーザ、端末属性に応じたネットワークポリシーを動的に適用し、ClearPassと3rd Party連携によりマルウェア感染端末を直ちに隔離することができます。

Data Center



DPU(ステートフルサービス専用チップ)内蔵のCX10000スイッチを使うことで、データセンタークラスのハイパフォーマンスとマイクロセグメンテーションの両立を実現します。(詳細は特集3)

2002年にステートフルファイアウォール内蔵の無線LANの提供を開始し、約20年を経てUnified SASE, Data Centerとソリューション領域を拡大し、ようやくEdge-to-Cloud で最高のエクスペリエンスを実現するSecurity-First Networkingを提供できるようになりました。今後もソリューションを拡充予定なのでご期待下さい。



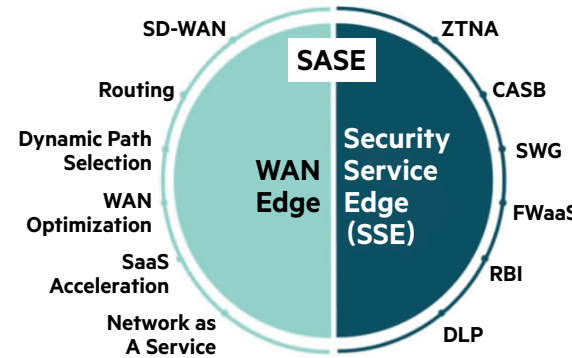
特集[2]
Unified SASE

シンプルでコスト効率が高い HPE Aruba Networking Unified SASE

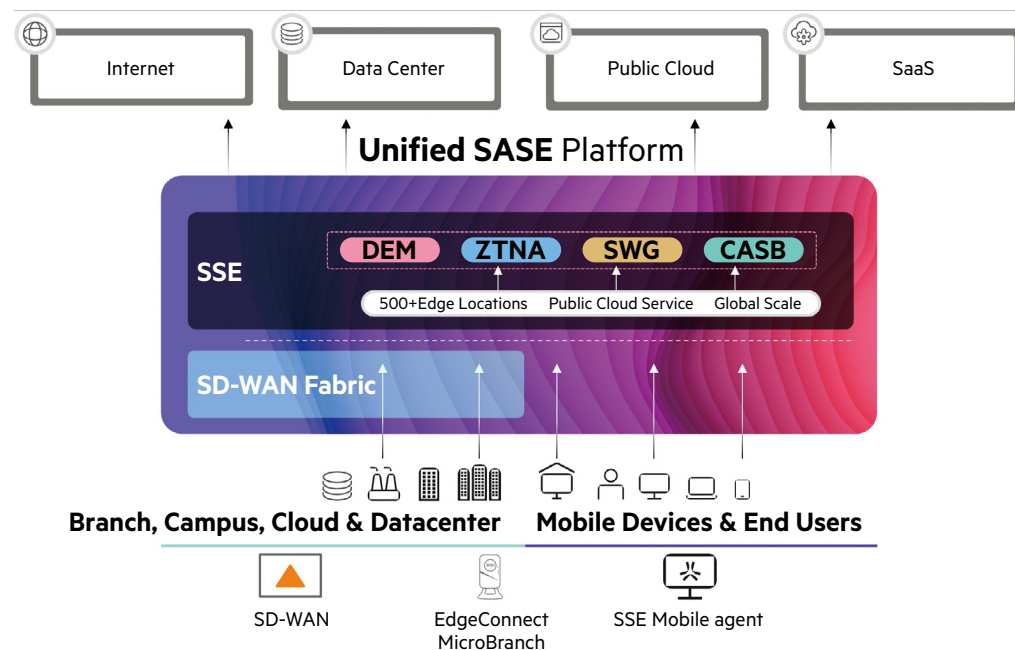
在宅勤務からハイブリッドワークにシフトする企業・組織が増加する中、どこからでもセキュアにアプリケーションへのアクセスを実現することは企業・組織にとって急務となっています。また、従業員の方が利用するアプリケーションはオンプレミスからクラウドへとシフトし、SaaSの活用やハイブリッドクラウド/マルチクラウド環境の実現が進んでおり、進化するアプリケーション環境に追従できる柔軟なネットワークとセキュリティが求められています。HPE Aruba NetworkingのUnified SASEは昨今の企業・組織におけるネットワークとセキュリティの課題にシンプルかつコスト効果が高いソリューションを提供します。

SASEとは

セキュアアクセスサービスエッジ (SASE) は2019年に初めて導入されたサイバーセキュリティに関する概念です。SASEは、ネットワークとセキュリティ機能を1つのプラットフォームに組み合わせたITフレームワークです。SASEは2つの「テクノロジーセット」から構成されます。1つはWANエッジサービス (SD-WAN)、もう1つはセキュリティサービスエッジ (SSE) であり、これらを組み合わせることで、グローバルに分散したワークフォース全体で、すべてのユーザー、デバイス、アプリケーションをセキュアに接続します。



SASEは単なるテクノロジートレンドではありません。このデジタル時代での成長を目指す現代のビジネスにとって、戦略的に不可欠なものです。HPE Aruba Networking Unified SASEはあらゆるコア機能を緊密に統合された単一プラットフォームから提供するSASEソリューションであり、強固なセキュリティポスチャ、運用管理者の高い作業効率とコスト効率、ユーザーと管理者のエクスペリエンス向上を実現します。



お客様へご提供する価値:

- あらゆるアプリケーションへの安全なアクセス
- 社内、支店、データセンターのネットワークを近代化
- スマートルーティングとエクスペリエンスモニタリングによる生産性の向上
- ユーザとデバイスに対するポリシー管理の簡素化

ZTNA (Zero Trust Network Access) による安全なリモートアクセスの実現

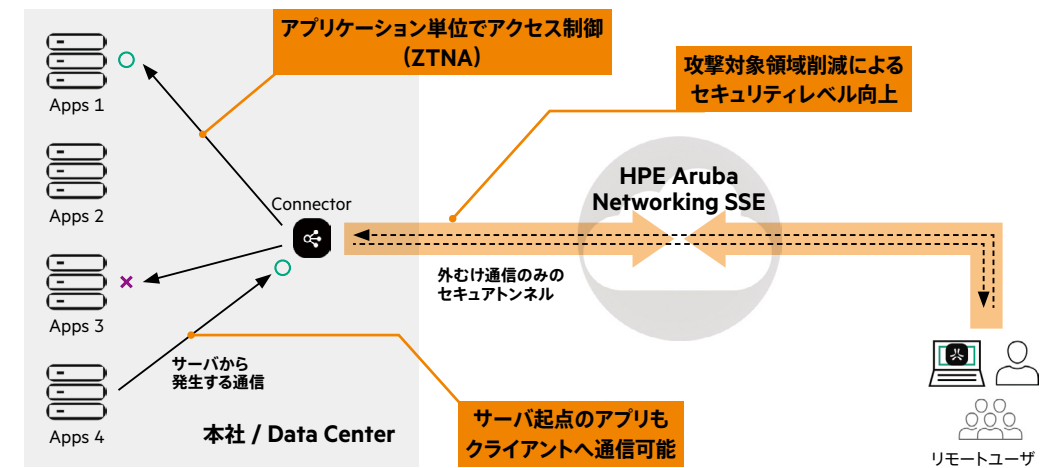
VPNのリスク増加

ランサムウェアの脅威は増加傾向にありますが、ランサムウェアを感染させる入り口としてVPNが悪用されていることはあまり知られていないかもしれません。令和5年上期の警察庁のレポートによるとランサムウェアの感染経路がVPNと回答した企業・組織は71%に上っており、VPNへのセキュリティの懸念が高まっていることを示唆しています。

HPE Aruba Networking SSEのZTNAによるVPNリプレース

そこでZTNAによるVPNリプレースが注目を集めています。HPE Aruba NetworkingのSSEは非常に優れたZTNAを提供しており、Connectorというアプリケーションが外向け通信のみのセキュアなトンネルを確立し、社内やデータセンターへの安全なアクセスを提供します。これによりアタックサーフェス (攻撃対象領域) の削減やアプリケーション単位のアクセス制御を実現することが可能です。またサーバを起点とした通信を行うアプリケーション (システム管理ツールやバッチ配信ツール等) にも対応しており、VPNの完全撤廃が実現できます。

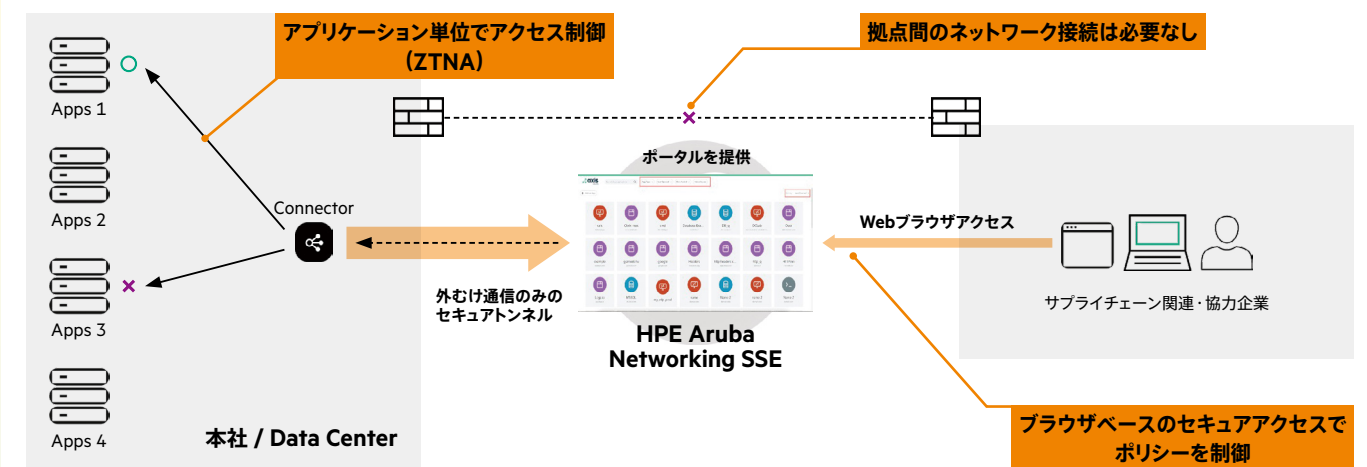
〈VPNリプレース〉



サプライチェーンのセキュリティにエージェントレス ZTNA

さらにHPE Aruba NetworkingのSSEはエージェントレスのZTNAを提供しています。これはエージェントがインストールできない関係会社や協力会社から自社のシステムにブラウザ経由で安全にアクセスさせる仕組みです。サプライチェーンのセキュリティを懸念されているお客様は会社同士のネットワーク接続は行わず、HPE Aruba Networkingが提供するポータルサイトを通じて安全に自社のアプリケーションにアクセスさせ、ビジネスとセキュリティの両立を可能とします。

〈協力会社、関係会社からの安全なアクセス〉



次世代データセンターネットワーク

これからの時代の企業のDX変革に対応するため、データセンターに求められる要件として高可用性、スピーディ、柔軟性、セキュリティ、シンプルさ、などがあげられます。HPE Aruba Networkingでは次世代データセンターネットワークを効率的、効果的に構築・運用するために重要なポイントとして、Connect: 接続性, Protect: セキュリティ, Automate: 自動化の3点を軸に新しいコンセプトの製品の開発を含め、ソリューションの開発を行っております。

特集 [3] Data Center Network

Connect Cloud native switching architecture



アクセスエッジからDCまで共通のオペレーションモデル

フォームファクタ、ライセンシングの最適化により~35%の低TCO

Protect Distributed services architecture



スイッチファブリックに統合されたステータスで高速なサービス

従来のデザインに比べ~100倍のスケール

Automate Software-defined fabric automation / orchestration

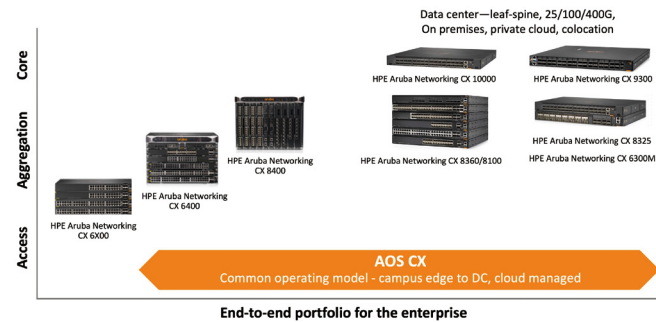


DXを加速するシンプルでスピーディなITプロビジョニングによるサービス提供

従来のCLIによるプロビジョニングに比べ~10倍の高速化

Connect

Aruba CXシリーズスイッチはキャンパス向け6000シリーズからDC向けハイパフォーマンススイッチ CX8000/9000/10000シリーズまで共通のネットワークOS AOS-CXを採用、煩雑な管理の必要のないシンプルでライセンス体系、フルプロトコルスタックのサポート、APIをフルサポートし、低TCOで効率的なネットワーク構築・運用・管理を実現します。AOS-CXにはスイッチの状態監視、アラート・イベント通知を行うNetwork Analysis Engine (NAE)を標準搭載しています。NAEはスクリプトのインストールにより用途に応じた監視項目、閾値を設定でき、アラート機能によりトラブルを未然に防ぐことに役立ちます。



Protect

データセンターアーキテクチャは現在まで、大きな進化を遂げました。1990年代にはマルチプロトコルに対応するL2スイッチによるフラットな構成が主流でしたが、2000年代になりTCP/IPにプロトコルが収斂されるとL3スイッチを用いたNorth/Southトラフィックに適した3層構造に発展しました。2010年代になり仮想化、コンテナによるマイクロサービスがデータセンター内のEast/Westトラフィックの爆発的な増加を招き、Spine/Leafファブリックによりオーバーレイによる拡張性と、広帯域、低遅延、安定性がもたらされました。しかし、この時点ではデータセンター内のセキュリティはネットワーク内にデザインされていませんでした。Arubaは新しいコンセプトのスイッチである「分散サービススイッチ」によりインラインにサービスを埋め込む新たなソリューションを提供します。

Using NAE

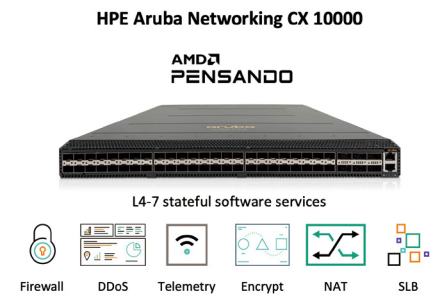
- ServiceNowおよびTopDeskと統合されたITSMの変更管理
- 重要なイベントやエラーに対するプロアクティブな電子メール通知
- TFTP設定更新による自動設定アーカイブ
- トランシーバーの健全性と故障の根本原因の診断
- VSXの安定性を強調するVSXヘルスマニター
- 障害が発生した場合のモニタリングとルート変更
- 一般的なネットワークの健全性のための予測故障ファインダー
- IPSLAトランザクションに基づくVoIPモニター
- MACおよびARPカウンタ解析による適切なデバイス負荷の確保

テレメトリと深い可視性によるトラブルシューティングの迅速化
Network Analytics Engine

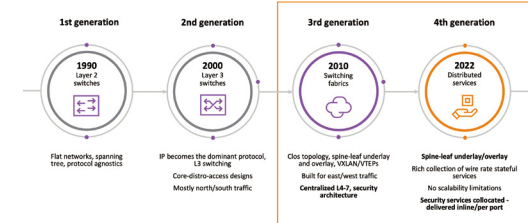
リアルタイムのネットワークの可視化
早期問題検出のための自動モニタリング
24/7 ネットワーク監視

新しいスイッチのカテゴリー：分散サービススイッチ

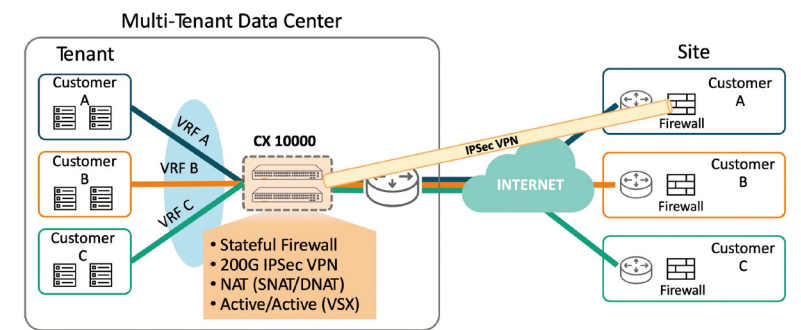
HPE Aruba NetworkingがAMD/Pensandoと共同で開発したCX10000は、Pensandoが開発した次世代DPU (Digital Processing Unit)を搭載することで、1RUの筐体のスイッチで800Gbpsにも達する高速なステータスフルなサービス: East/Westトラフィックへのファイアウォール、マイクロ・マクロセグメンテーション、テレメトリのサービスが実現できます。また、最新バージョンではIPSecとNAT機能が実装され、Border LeafにCX10000を配備する事でサイト間のIPSec接続を実現し、そのIPSec Tunnelでは200GbpsでのVPN接続を実現可能です。CX10000をToRに搭載することで、East-Westトラフィックに対し、ラック内でのH/Wベースでのファイアウォール制御が可能となり、サービスの分散が実現され従来のような大型のファイアウォールアプライアンスを用意する必要はなくなります。これにより、堅牢なデータセンターの構築が可能となり、運用の簡素化と大幅なコストの削減が実現します。



〈データセンターネットワークの進化〉



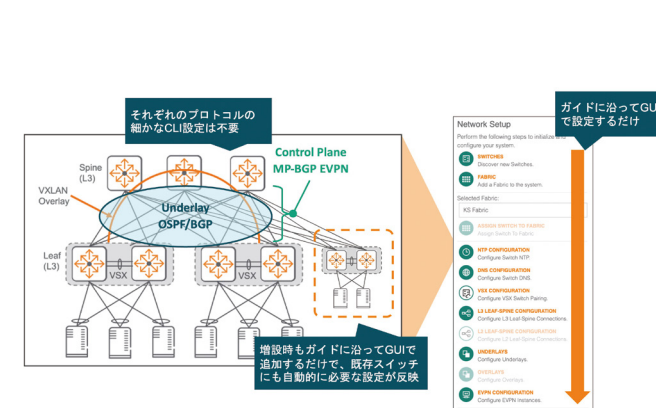
〈複数テナントを収容するハイスpekIPSec終端機器〉



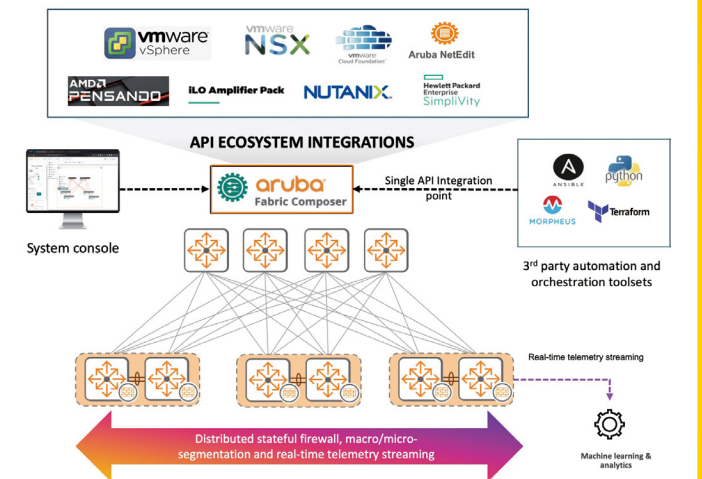
Automate

Aruba Fabric Composer (AFC) による、デプロイメントの自動化、多様なソリューションとのAPI連携による一元管理、日常的なネットワーク管理タスクの自動化、セキュリティポリシーの一括管理を実現します。初期導入では、AFCによるウィザード形式の手順に従って設定を進めることで、大規模な展開でも自動的にデータセンターファブリックをアンダーレイからオーバーレイの設定まで、短時間に人為ミス最小化しながら進めることができます。もう多くのコンソール画面を開いて各機器の設定を確認しながらコマンドを打ち込む必要はありません。AFCにはCLIを操作する機能もあり、自動設定後にCLIでの確認も可能です。AFCはVMware、Nutanixなど多くのソリューションとAPI連携し、情報を可視化します。アプリケーションオーナーがVMを構築しパーチャルスイッチにVLANを設定するとAFCの画面で確認ができ、スイッチポートのVLANが自動設定されます。この一元管理機能によりアプリケーションの展開までのインフラストラクチャのデプロイメントの時間が短縮され、迅速なDX化への対応が可能となります。AFCは現在DCで利用される様々なツールとAPI連携しCX10000のファイアウォールの制御に関しては、Pensandoのマネージメントツール Policy Service Manager (PSM)とAPI連携する事で、ToRに配置した多くの分散サービススイッチによるマイクロ・マクロセグメンテーション、ファイアウォールのセキュリティポリシーの一括管理を可能にします。

〈Network Fabricの構築・運用を劇的に簡素化するAFC〉



〈Network and security policy automation with full visibility〉

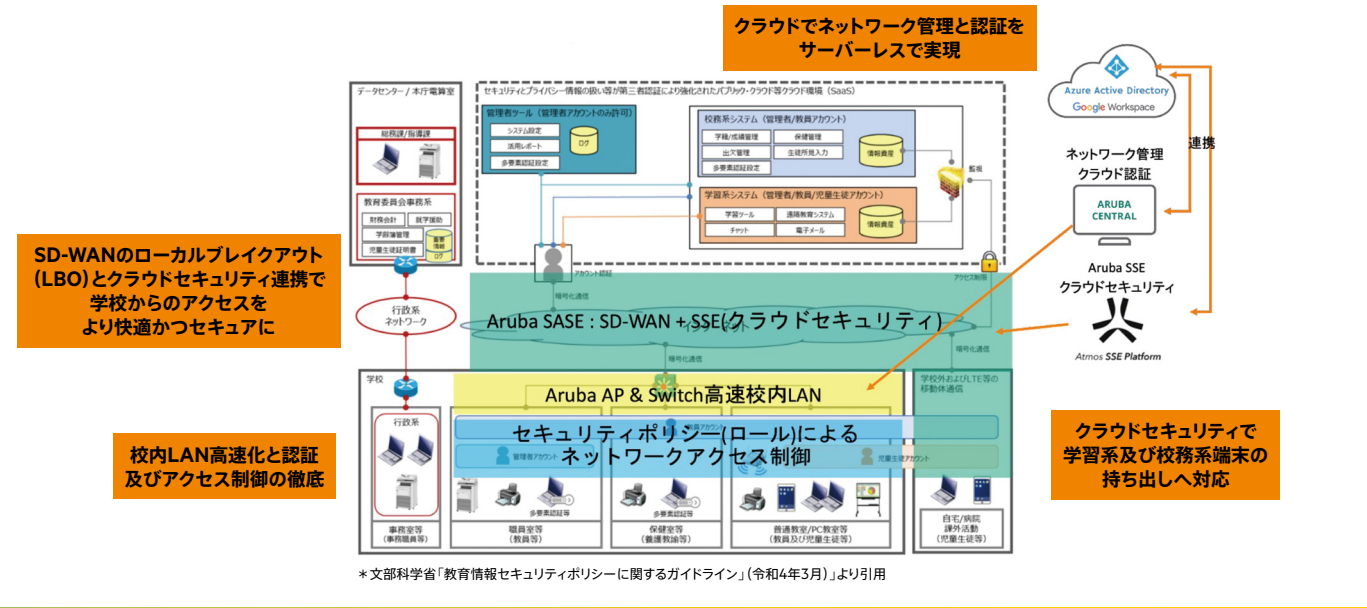


特集[4] GIGA スクール

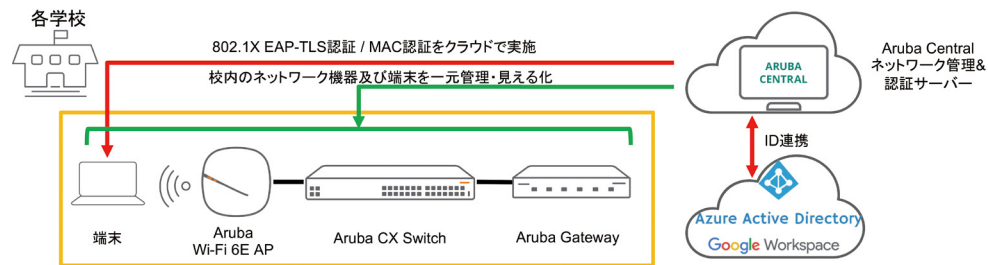
HPE Aruba Networkingによる GIGAスクールネットワークの課題解決

従来より多くの学校ネットワークで、HPE Aruba Networkingの無線LANやスイッチ製品が採用され、学校内のICT環境へ貢献していましたが、文部科学省による「GIGAスクール構想」により、1人1台の端末整備やICT環境の整備が進み、学校の校内LANや無線LAN整備がかなり進められました。この整備の中で多くの学校において、新しく無線LANやスイッチを導入し、1人1台の端末環境への対応を進められ、実際に学習においても活用されています。一方で、整備後様々な課題も出てきており、ネットワークについてもネットワークアセスメントの実施により今後の改善を行っていくとする流れは加速していくものと思われます。そのような流れに対し、HPE Aruba Networkingでは「次のGIGAスクールネットワークに於ける課題解決が可能なソリューションをご提案致します。

「GIGAスクール構想の実現に向けたクラウドの活用を前提とした 今後の推奨ネットワーク構成」へのHPE Aruba Networkingによる対応



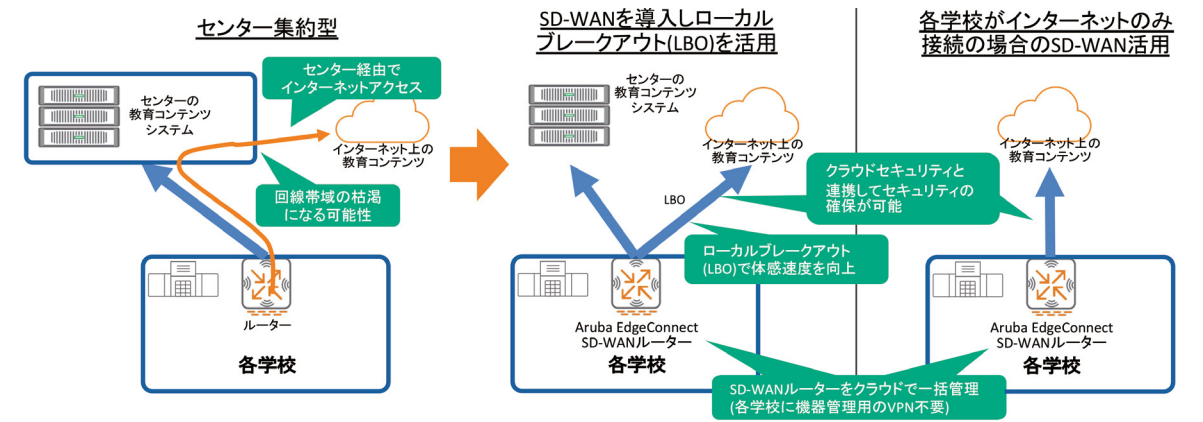
快適な校内LANとサーバーレス運用で運用負荷を軽減&認証の強化を実現



〈校内LANにおける課題と解決策〉

カテゴリ	課題	HPE Arubaの解決策
通信速度	GIGAスクール端末及びネットワーク導入後のWi-Fiが遅い、切れるなどの問題がある	HPE Aruba Networkingの高いパフォーマンスのWi-Fi 6E APやスイッチ。APは最適なAPへ接続させる特許技術 ClientMatch搭載で、ローミングや負分散に対応。
セキュリティ	端末のネットワーク認証をしていないので、セキュリティに不安がある	Aruba Centralでネットワーク認証を利用可能なため、認証サーバーが不要。(詳細はカタログP.18ご参照)
運用	無線LANの見える化ができていない 専門家でない職員のための運用負荷軽減が必要	Aruba Centralで電波状況やAPの状態だけでなく、端末の状態も見える化。 Aruba CentralのAI機能で自動分析が可能。機器の追加や交換もゼロタッチ対応。画面も日本語にしっかり対応。

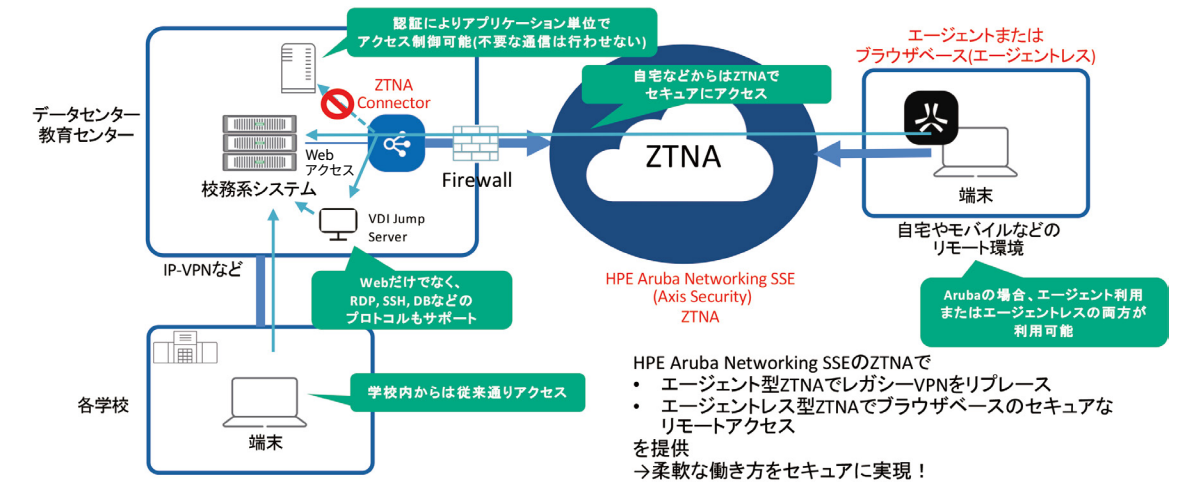
SD-WANによる学習系ネットワークへの効果



〈WANにおける課題と解決策〉

カテゴリ	課題	HPE Arubaの解決策
通信速度	センター集約型でインターネット向けトラフィック増大により、回線を圧迫している	Aruba EdgeConnect SD-WANで、各学校でのローカルブレイクアウト (LBO) により、インターネット上のコンテンツへ学校から直接アクセスさせることで、快適な利用を実現
セキュリティ	インターネットへ直接アクセスさせる場合のセキュリティが不安	クラウドセキュリティと連携しインターネットアクセスもセキュアに。クラウドセキュリティはAruba SSEはもちろん、各ベンダーとの連携も可能。
運用	SD-WANとAPやスイッチの管理を一緒にしたい	Aruba CentralでSD-WAN, AP, スイッチを一元管理

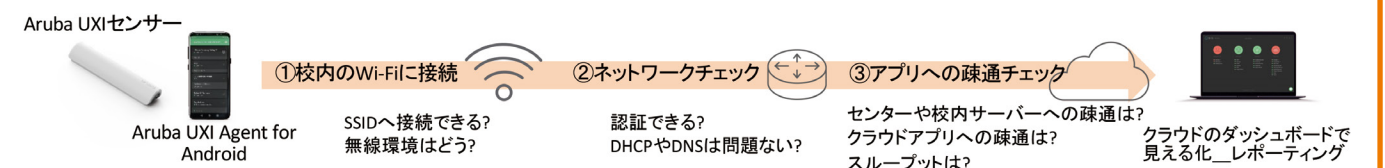
校務系端末のセキュアリモートアクセスで職員の働き方改革を支援



〈リモートアクセスにおける課題と解決策〉

カテゴリ	課題	HPE Arubaの解決策
セキュリティ	従来のVPNに対してリスクを感じている アクセスできるシステムを制限したい	HPE Aruba NetworkingのZTNAにより従来のVPNと比べてリスクを減らしてリモートアクセスが実現可能 接続時に認証をしっかりと行った上で、アクセス制御を実施。
運用	端末に何もインストールせずに在宅勤務時に個人端末利用もしたい	HPE Aruba NetworkingのZTNAであれば、エージェントレスでWebベースのシステムや、リモートデスクトップが可能。

ネットワークアセスメント支援ツールAruba UXI (User Experience Insight)



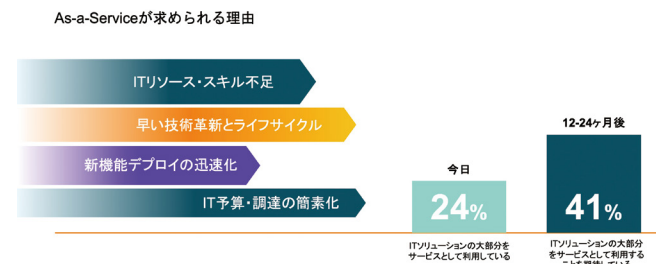
特集 [5] GreenLake

ネットワーク機器を所有から利用へ Aruba NaaS: ネットワークの新しい買い方 "HPE GreenLake for Networking Service Packs"

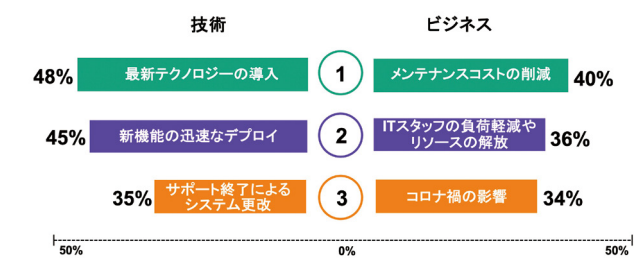
DX推進に必要なネットワーク環境の柔軟性とアジリティを提供するAruba NaaS

NaaS はネットワークのアズ・ア・サービスモデルとして、ネットワーク機器やネットワーク管理に必要なアプリケーションを所有せずに利用できるサービス、つまり、ネットワークベンダが提供するネットワークを、IaaSとして利用するものです。NaaSについてHPE Aruba Networkingが実施したNaaSに関するアンケート結果では、ビジネスニーズに応じてネットワークを柔軟に拡張できることがNaaSへの関心につながると75%の企業が回答しています。また、NaaS導入によりネットワークのライフサイクル管理が変わると考えている企業は64%、イノベーションと戦略的イニシアティブのための時間が確保されると考えている企業は57%にもおよんでいます。ただし、ITスタッフの削減を目的としてNaaSを検討している企業は半数以下(48%)となっており、企業側でもDXをはじめ、戦略的な業務にITスタッフを再配置することに価値を見出し始めていることも見受けられます。

〈迅速かつフレキシブルなネットワーク環境の要求〉



〈ビジネス及び技術の課題 両方がNaaS導入のきっかけに〉



ネットワーク機器をサービス利用するメリット

HPE Aruba Networkingが提供するNaaSが「HPE GreenLake for Networking」です。メリットは、大きくは4つが挙げられます。

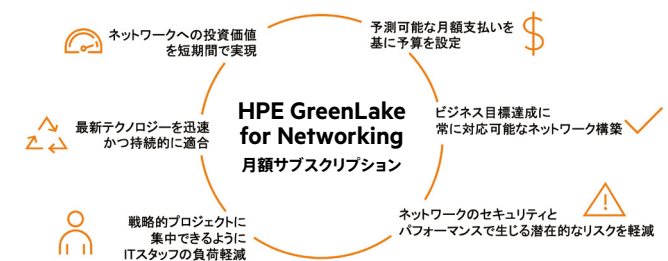
- 財務面や運用面の柔軟性
- 最新テクノロジーの迅速な適用
- セキュリティ強化
- サステナビリティへの貢献

これにより、アズ・ア・サービスとして享受されるメリットをネットワーク領域に適用できるようになります。HPE Aruba Networkingでは、さまざまなエッジ環境のユースケースに柔軟に対応できるテクノロジーを備えています。そして、クラウド型でネットワークの一元管理を実現するAruba Centralを基盤としてAruba ESP (Edge Services Platform) をサービスとして提供します。HPE GreenLake for Networkingの特長は、ビジネス成果の達成に向けて、必要なハードウェア、ソフトウェアおよびサービスを全て単一の包括的な月額サブスクリプションで利用可能であることです。また、更新時にテクノロジーリフレッシュで新しいネットワークデバイスへ変更することができ、最新テクノロジーを使った最適なネットワーク環境が利用できます。今回新たに、お客様・パートナー様がより簡易にAruba NaaSを利用できる「Service Packs」をリリースしました。無線や有線、SD-WAN、ネットワークポリシーなど製品カテゴリごとに必要なコンポーネントがパッケージ化されていることでシンプルに選択・調達できます。本サービスを通じてHPE Aruba Networking/パートナー様と協調し、柔軟性とアジリティがあるネットワーク環境を提供してまいります。

〈ArubaのNetwork as a Service (NaaS) *定義〉



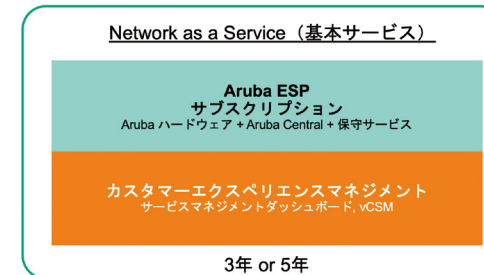
〈ネットワークに必要な柔軟性とアジリティを実現するAruba NaaS〉



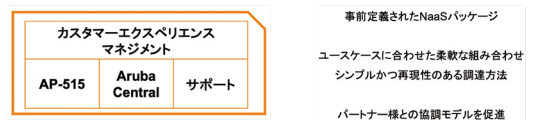
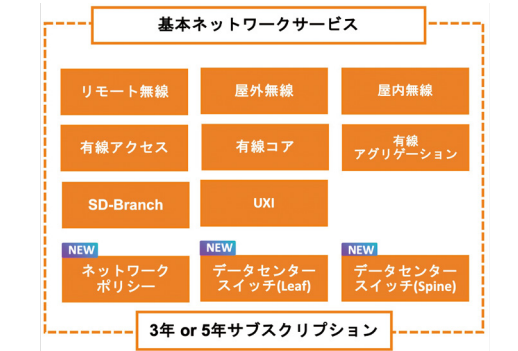
HPE GreenLake for Networking Service Packs

Service Packsでは、特定のユースケースに必要なネットワークデバイス、ソフトウェア、サービスをサブスクリプションで提供します。また、HPE Aruba Networking独自のネットワークライフサイクルを支援するカスタマーエクスペリエンス管理が含まれます。これにより、デジタルインサイトとバーチャルカスタマーサクセスマネジャーの専門知識を利用して環境を継続的に分析・評価し、ネットワークのオペレーションとセキュリティを最適化することができます。

〈HPE GreenLake for Networking Service Packs〉



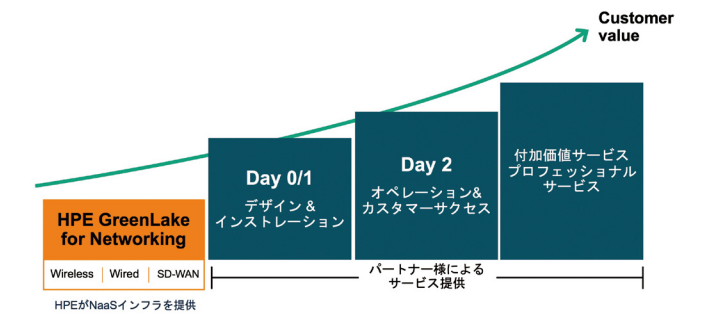
- サブスクリプション**
- ✓ HPE Aruba Networkingハードウェア+Aruba Central+保守(ファウンデーションケアサポート)を1本化したネットワークサービスとして提供
 - ✓ お客様のネットワーク環境の大規模な投資計画 & 予算化の負担を軽減
 - ✓ 最新技術のネットワークリソースを資産化することなく利用、月額費用支払い
- カスタマーエクスペリエンス管理**
- ✓ ネットワーク環境の最適化のためのデジタルインサイトを提供
 - ✓ サービス管理ポータル(Aruba Services Manager)とバーチャルカスタマーサクセスマネージャ(vCSM)を通じて、利用環境におけるアドバイスを提供し、オペレーションを最適化
- ネットワークサービス利用のファイナンスモデル → オペレーション最適化



Service Packsの特長と柔軟性

この2つのコンポーネントを、3年または5年間の契約期間で月額利用サブスクリプションで提供します。このことによりお客様ネットワーク資産をCAPEX→OPEX化できます。Service Packsは、お客様が必要とするネットワークのインフラとネットワークライフサイクル管理をサービス提供します。導入(デザイン&インストール)・運用(オペレーション&カスタマーサクセス)に関わるサービスについては、必要な技術リソースをパートナー様のサービスと組み合わせることができます。

〈パートナー様サービスと柔軟に組み合わせ〉



パッケージモデルと利用シーン

Service Packsは通常の製品購入と同じような体験で、幅広いお客様にNaaSをご利用いただけるようにするために、パッケージ化したサービスとしてあらかじめ11のユースケースをカタログ化、ネットワークデバイス・Centralライセンス・サービスを1つのパッケージとしてサブスクリプションでご利用がいただけるようになりました。このサービスは、個別の契約書の取り交わしはありません。製品購入体験と同様、お客様の拠点毎に必要な構成、例えば「屋内無線 AP-615」を何台、「有線アクセススイッチ CX-6200」を何台と決めていただければAruba NaaSソリューションを簡易かつスピーディーにご利用開始いただけます。

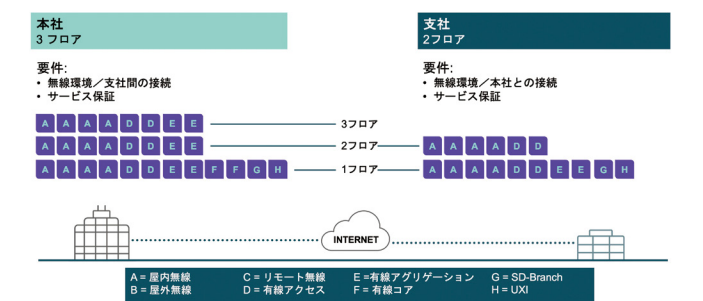
〈Wireless アズ・ア・サービス 【屋内無線】〉

[AP-615] Service Pack構成 (例)

製品型番	製品名
JN039AAS	HPE GreenLake for NaaS Wireless Indoor Service Pack includes Foundation Care And Aruba Central Foundation [monthly for XX-month term]
(R7J48A)	Aruba AP-615 (JP) Campus AP
(R3K00A)*	12V/48W AC/DC power adapter with 2.1/5.5mm connector
(JW122A)*	PC-AC-JP Japanese AC Power Cord
(R3J15A)*	AP-MNT-AP mount bracket individual A: suspended ceiling rail, flat 9/16

*オプション選択可

〈利用シーン〉

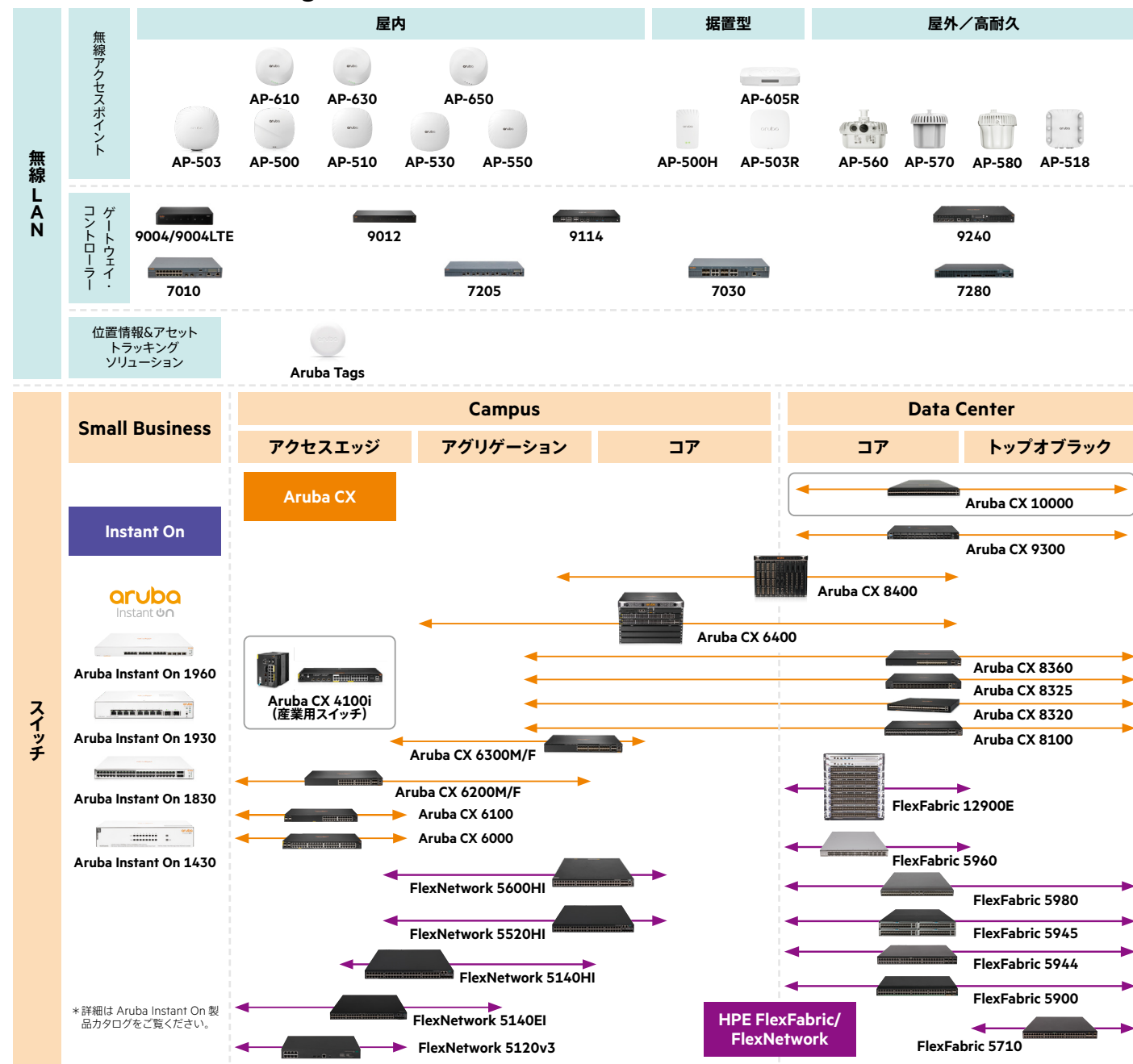


製品ラインアップ

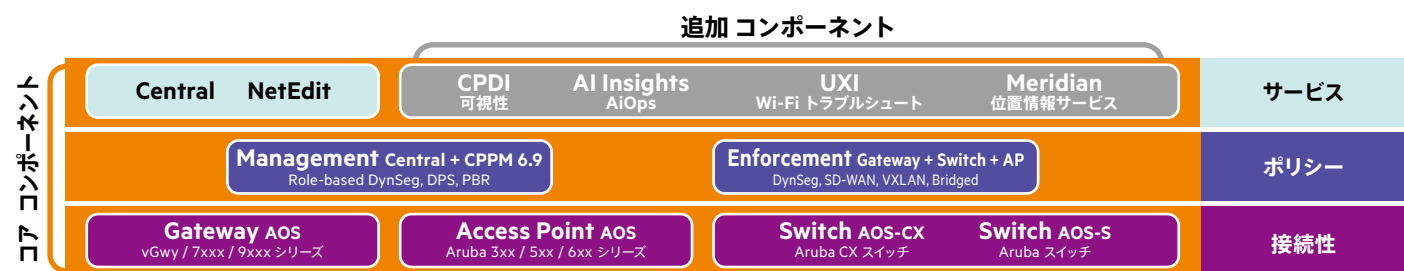
ネットワークの可能性を最大限に高める

HPE Aruba Networkingは、モバイル、クラウド、IoTおよびダイナミックかつインテリジェントに機能する「セキュリティ」に対応して、「ユーザー中心型」の、よりスマートで安定したパフォーマンスをご提供します。

HPE Aruba Networking 製品ラインアップ(ハードウェア)



Aruba アーキテクチャのコンポーネント



当製品カタログでご案内している製品全般に関するご確認・ご購入に関するご相談については、弊社担当営業にお問い合わせ頂くか、こちらのURLにアクセスいただき、メッセージ欄にご記載の上、ご送信ください。

<https://www.arubanetworks.com/ja/company/contact-us/contact-us-form/>



取扱い店印

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。記載事項は2023年12月現在のものです。本カタログに記載された内容は、予告なく変更されることがあります。

© Copyright 2023 Hewlett Packard Enterprise Development LPの商標です。

© 2023 Aruba Networks, Inc. All rights reserved. Aruba Networks® はAruba Networks, Inc.の商標です。

その他の商標または登録商標は各社の所有物です。仕様については、予告なく変更されることがあります。

HPE Aruba Networking
ソリューション特集

日本ヒューレット・パッカード合同会社

〒136-8711 東京都江東区大島2-2-1

TEL. 03-6743-6370 (カスタマー・インフォメーションセンター)

<https://www.hpe.com/jp>